資料1

苫小牧市総合戦略推進会議

第3回会議資料

2015年11月20日

0. 会議の概要について（再掲）

苫小牧市人口ビジョン及び地方版総合戦略策定に向け、次の流れで取り組みます

プロジェクト全体像

：本日報告部分

基礎調査・分析

- 統計データ等の分析
- 国提供データ・ツール
- 独自調査データ
- 地域経済分析システム

市民アンケート調査

市の既存計画（総合計画等）、関連計画（国・道の長期ビジョン・総合戦略等）の把握・整合

情報提供

苫小牧市人口ビジョン策定

- 人口動向分析
- 将来人口の推計と分析
（人口の変化が地域の将来に与える影響の分析・考察）

- 将来展望に必要な調査分析
- 目指すべき将来の方向
- 人口の将来展望

分析結果

数値反映

苫小牧市総合戦略策定

- 現状分析
- 課題抽出

- 将来像（基本目標、基本的方向）の検討

- 具体的な施策の立案
- 評価指標（KPI）の設定

- PDCAサイクルの構築

意見交換
内容審議

苫小牧市総合戦略報告書（案）の作成

パブリックコメント実施
（〇月〇日より
1ヶ月間実施予定）

「苫小牧市総合戦略推進会議」の開催

苫小牧市総合戦略推進会議では、総合戦略策定に向けて以下のスケジュールおよびテーマについて議論をおこないます

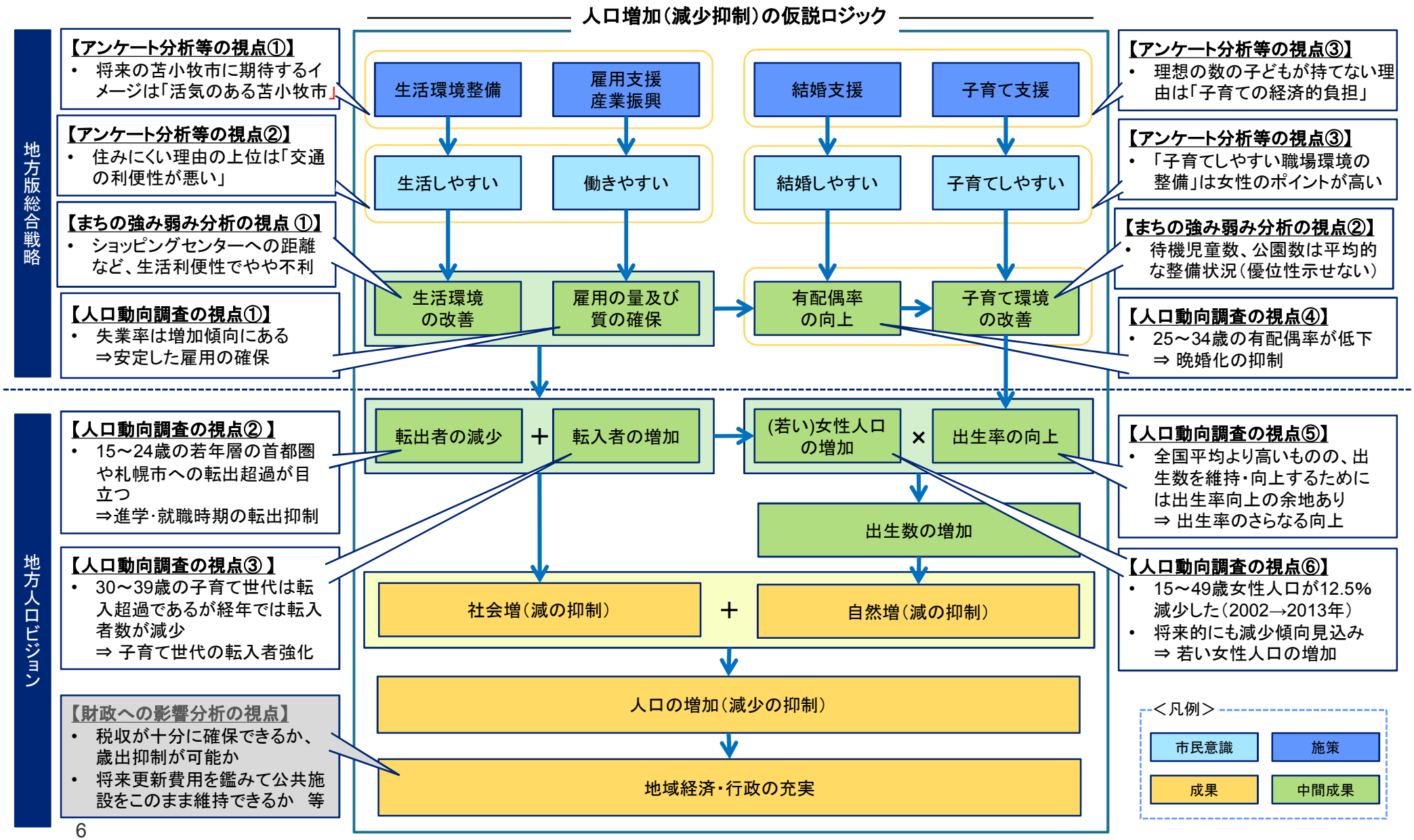
苫小牧市総合戦略推進会議の実施内容

Step	日程	会議の実施内容
【第1回】 オリエンテーション 課題共有	7月15日（水）	• 策定の背景・目的の説明 • 会議スケジュール等の確認 • 人口動向分析・将来推計結果の報告 • 各委員の自己紹介（課題認識の共有）
【第2回】 将来像検討 施策案検討	8月19日（水）	• 市民アンケート結果の報告 • 人口ビジョン（案）の説明 • 目指すべき将来の方向性（案）に対する意見交換
【第3回】 総合戦略報告書 （素案）の検討	11月20日（金）	• パブリックコメント（11月実施）の概要説明 • 総合戦略（骨子）の説明 • 総合戦略（骨子）に対する意見交換
【第4回】 総合戦略報告書 （案）の検討	1月中旬	• パブリックコメント結果報告 • 総合戦略報告書（案）の説明 • 総合戦略報告書（案）に対する意見交換
（苫小牧市総合戦略策定）		
【第5回】 報告会	3月下旬	• 先行型事業の効果検証について • 総合戦略報告書の報告

１．人口減少抑制の課題と人口ビジョン（更新版）

地方版人口ビジョンと総合戦略策定に向けたロジックより人口増加（減少の抑制）につなげるための課題を抽出しました

：課題
：調査中



苫小牧市が目指すべき将来の方向性（案）

（参考）事務局内議論プロセス

主な課題と目指すべき将来の方向性（案）

主な課題

問題点（仮説）	出生率	• 人口維持のためには出生率向上が必要 • 「経済的負担」が子どもの数を抑制
	（若い）女性人口	• 若い女性人口（15~35歳）は減少傾向 • 女性の場合は札幌市内へ転出超過
	子育て環境	• 子育て環境で優位性は示せていない • 子どもの教育環境の向上
	結婚環境（有配偶率）	• 女性の25～34歳の有配偶率も低下。 • 結婚支援で必要なのは「雇用確保」
	働きやすさ	• 正規社員の拡充などの雇用の安定化 • 子育てしやすい職場環境の整備
	生活環境	• ショッピングセンターへの距離など、バス便の少なさなど、生活利便性でやや不利
	転入	• 自分や家族の仕事（転勤等）を理由とした転入者が過半数を占める • 大学進学や就職を理由に苫小牧を離れる若者が多い
	転出	
強み	立地	• 空港と港の双方にアクセスしやすい立地。 • ゲートウェイ機能（人や物流拠点）をもつ

目指すべき将来の方向（案）

①

- 進学や就職を機とした若者の流出を抑えるとともに、結婚や転職を機に“移り住みたいまち”として選んでもらえる苫小牧市にする

⇒働く場として、有力な選択肢となる施策

【ターゲット】市内の学校に通学する高校生、大学生等（10～20代）
【施　策　例】雇用の拡大（地元出身の新卒者やUターン者の取り込み）、地元企業を知る仕組みづくり（高校生インターンなど）、

②

- 北海道内の他市町村と比べ、子育て環境などを理由に“住んでみたい”と思ってもらえる苫小牧市にする

⇒子育ての場として、他市町村と比較して勝てる施策

【ターゲット】市内外在住の子育て世帯（30～40代）
【施　策　例】子育て環境の整備（子どもの遊び場整備、女性が働きやすい職場環境整備等）、生活利便性の向上、教育環境の充実、等

③

- 地元の魅力を掘り下げ、伝えることで、将来、子どもたちが“自慢できる”苫小牧市にする

⇒苫小牧の魅力や強みを最大限アピールする施策

【ターゲット】市民、観光客など
【施　策　例】地元の魅力の掘り起しや発信（PR）、観光振興を市民を巻き込んで展開（まちなか観光や産業観光など）

人口の将来展望

目指すべき将来の方向性

現状及び課題の整理		補足資料
①就職時期の若年世代の転出超過が目立つ。札幌市や首都圏への転出を抑制するような雇用環境の充実が課題である。		
人口動向分析	・ 年齢別にみると、20～29歳の転出が最も多い。20代の若者が、毎年2000人近く苫小牧市から出て行っている。 ・ 転出超過の移動先は、札幌市、首都圏が大半を占め、男性は首都圏への転出の割合が女性よりも高い。 ・ 完全失業率は、男女ともに20年間（1990～2010年）は増加傾向にある。 （2015年の完全失業率は減少に転じると予想されるが、依然高い水準にあると言える。）	第1回資料/P44-45,68
アンケート	・ 高校生、大学生等の場合、市外への転出理由は、進学や就職が最も多い。 ・「苫小牧市の優良企業として思いつく企業があるか」については半数以上（66.9%）が「いいえ」と回答している。	資料２/④学生/P5、6
②現在の出生率を維持しても人口は減ることから、 若い女性人口を増やすとともに、子育ての経済的負担軽減が課題である。		
人口動向分析	・ 出生率は1.51と全国や北海道に比べ高いが、若い女性人口（15~35歳）は減少傾向にある。 ・ 有配偶率の推移をみると、30～39歳の男性、25～34歳の女性の低下が著しい。	第1回資料/P33、36、37、38
アンケート	・ 理想の子どもの数に対し、実際の子どもの数が少ないと回答した人が、約半数（48.6%）である。 ・ 理想の子ども数が持てない理由の上位は、「子育てや教育にお金がかかりすぎる（62.3%）」である。	資料２/①市民/P12
③地域コミュニティの活性化や域内交通の利便性が低いなど、生活環境の改善が課題である。		
人口動向分析	・ 北海道内の周辺市町村からの転入がほとんどである。 ・ 年代は20歳～39歳の世代が多くなっている。	第1回資料/P44、45
暮らしに関する指標	・「暮らしに関する指標」において、周辺市町村に比べ、差別化できる項目が少ない。	資料1/P10
アンケート	・ 苫小牧市のイメージでは、「活気のある」に対する現在と将来のギャップが大きい。（≒今足りない要素） ・ 苫小牧市が住みにくい理由として「交通の利便性が悪い」「娯楽に関する施設が整っていない」などが上位である。 ・ 苫小牧市の良さを内外にPRできていない。（自由記述「苫小牧といったらコレという売りがほしい」「水がいいのにPR不足」など）	資料1/P8 資料２/①市民/P5

課題を踏まえた目指すべき将来の方向性（案）

①市内の雇用環境を維持・向上させるとともに、市内の住みやすさを改善し、札幌市をはじめとする若年層の転出を抑制する。
②子育て・教育しやすい環境を整備するとともに、結婚・子育て世代（特に女性）の転入を増やし、出生率を向上させる。
③生活環境を改善し、苫小牧市での暮らしのメリットをPRすることで、交流人口やUIJターンをより増加させる。

将来展望は、高・低・中位9パターンの推計を行い、戦略の方針に沿って決定します

将来展望の考え方（1）

STEP1

方針決定のための将来展望の推計

市の方針を決定するため、将来展望を純移動率・合計特殊出生率を高・中・低位で仮定し、9パターンを推計

方針レベル	合計特殊出生率		純移動率
高	人口置換水準（2.1）と仮定	✖	過年度データの最高値※2を採用
中	過年度データの最高値（1.78）※1と仮定		移動率がゼロ（社会増減がゼロ）
低	直近合計特殊出生率（1.51）が続くと仮定		直近移動率がこのまま続くと仮定

STEP2

総合戦略と整合した将来展望の決定

総合戦略の基本目標や施策の方向性と仮定値(出生率・人口移動率)を整合し、市としての将来展望を決定する

#	合特殊出生率（自然動態）		純移動率（社会動態）		推計結果（単位：人）	
					2040年	2060年
①	高		高		191,296	194,172
②	高		中		154,702	136,305
③	高		低		149,386	132,285
④	中		高		187,504	182,493
⑤	中		中		151,533	127,673
⑥	中		低		146,535	118,891
⑦	低		高		184,160	172,882
⑧	低		中		148,744	120,584
⑨	低		低		144,023	112,911

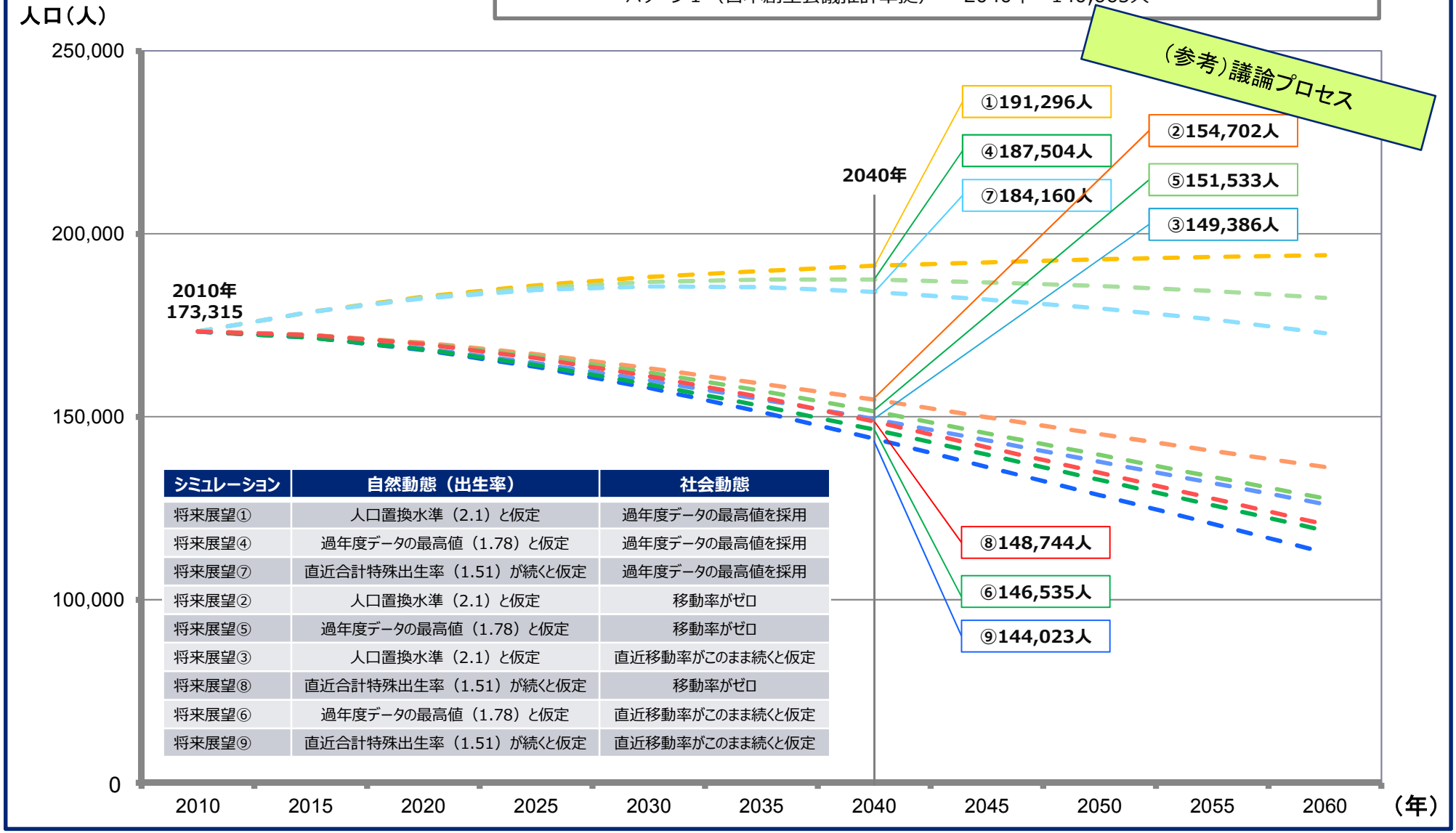
この辺が妥当（次頁で詳細を検討）

※1 苫小牧市出生率（1983～1987）／人口動態調査より
※2 過去30年間で最も人口移動率が高かった年の値（1990年→1995年）／国提供データより

人口の将来展望01

将来の展望

参考値
パターン１（社人研推計準拠）　2040年＝143,885人　2060年＝112,810人
パターン１（日本創生会議推計準拠）　2040年＝140,665人



シミュレーション	自然動態（出生率）	社会動態
将来展望①	人口置換水準（2.1）と仮定	過年度データの最高値を採用
将来展望④	過年度データの最高値（1.78）と仮定	過年度データの最高値を採用
将来展望⑦	直近合計特殊出生率（1.51）が続くと仮定	過年度データの最高値を採用
将来展望②	人口置換水準（2.1）と仮定	移動率がゼロ
将来展望⑤	過年度データの最高値（1.78）と仮定	移動率がゼロ
将来展望③	人口置換水準（2.1）と仮定	直近移動率がこのまま続くと仮定
将来展望⑧	直近合計特殊出生率（1.51）が続くと仮定	移動率がゼロ
将来展望⑥	過年度データの最高値（1.78）と仮定	直近移動率がこのまま続くと仮定
将来展望⑨	直近合計特殊出生率（1.51）が続くと仮定	直近移動率がこのまま続くと仮定

【人口目標別の将来展望】
一般的に短期間で出生率を大幅に改善するのは難しいことから、段階的出生率の引き上げ、若年層の社会移動の増加を図ることで人口減少を抑制する

将来展望の考え方（2）

事務局内議論中

STEP 3

パターン⑤をベースに、合計特殊出生率と移動率を再設定

パターン⑤を基準に合計特殊出生率を「微調整」し、純移動率「ゼロ」と仮定し推計

#	合特殊出生率（自然動態）		純移動率（社会動態）		推計結果（単位：人）	
					2040年	2060年
⑤	中	過年度データの最高値（1.78）※1と仮定	中	移動率がゼロ（社会増減がゼロ）	151,533	127,673
⑤-A	高	2040年までに段階的に引き上げ（合特殊出生率1.51→2.07）	中の上	移動率ゼロ＋20～30代の純移動を引き上げ（0%→1%）	157,351	140,605
⑤-B	中の上	2040年までに段階的に引き上げ（合特殊出生率1.51→1.90）	中の上	移動率ゼロ＋20～30代の純移動を引き上げ（0%→1%）	**156,531**	**137,139**
⑤-C	中の下	2040年までに段階的に引き上げ（合特殊出生率1.51→1.80）	中の上	移動率ゼロ＋20～30代の純移動を引き上げ（0%→1%）	155,168	133,831

※1 苫小牧市出生率（1983～1987）／人口動態調査より

実現に向けた方策

- 出産・子育て環境整備や支援拡充など、子育てにかかる（経済的）負担を軽減し、合計特殊出生率を段階的に上昇させる。
- 市内での雇用環境を拡充することで、就職時期の若者の市外への転出を抑制し、純移動を微増させる。

人口の将来展望02

将来の展望

２. 総合戦略策定の考え方

【1．総合戦略と人口ビジョンの関係】
総合戦略は人口ビジョンにおける課題と方向性に基づき策定しています

人口ビジョン・総合戦略の関係

苫小牧市人口ビジョン

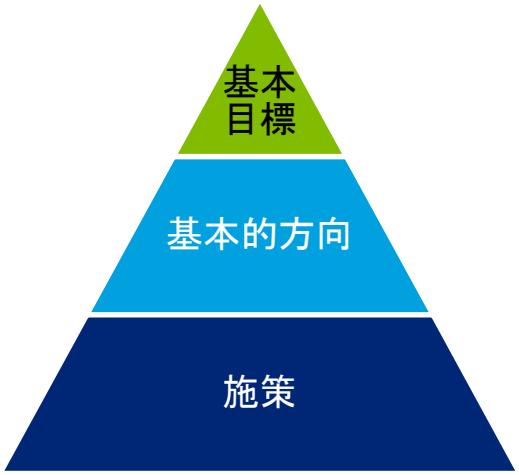
■ 苫小牧市の人口動向や将来人口推計の分析や中長期の将来展望を提示。

～人口等の現状分析～
・人口動向分析等
・将来人口の推計と分析
・人口の変化が地域社会に与える影響の分析・考察

～人口の将来展望～
・将来の方向性（現状・課題の整理、将来の方向性）
・人口の将来展望（将来展望人口）

苫小牧市総合戦略

■ 苫小牧市の人口動向や産業実態等を踏まえ、2015～2019年度（5か年）の政策目標・施策を策定。

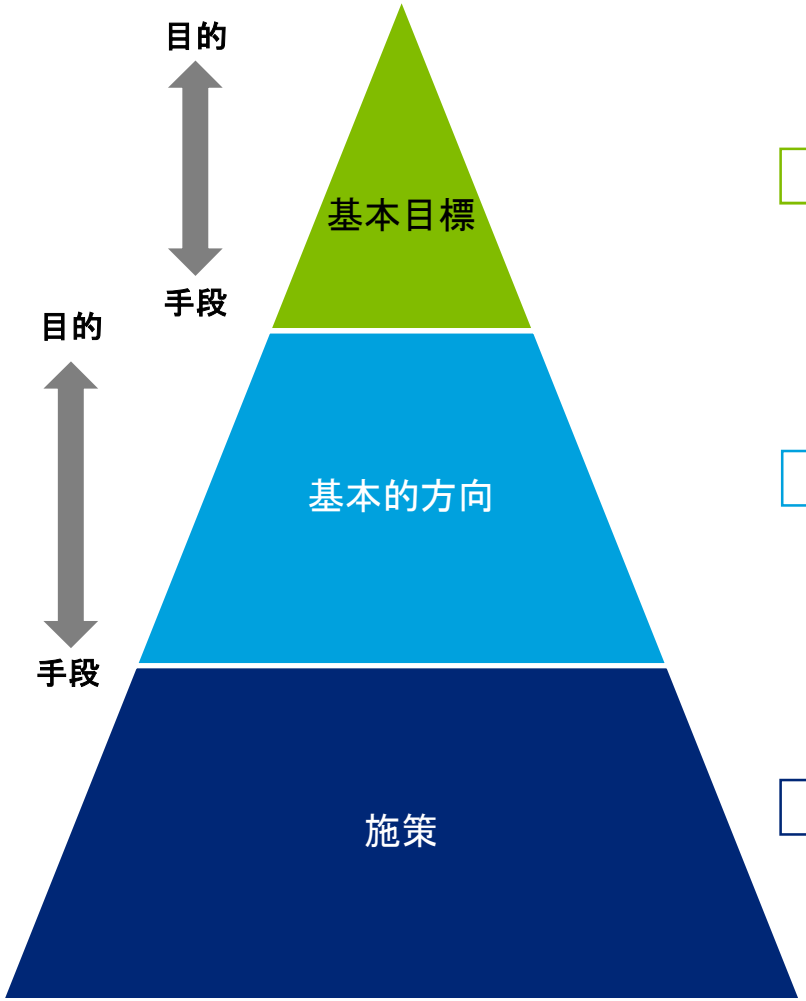


PDCAサイクルに基づく進捗管理

主に人口の将来展望（苫小牧市人口ビジョン）にて提示した、“将来の方向性”及び“人口の将来展望”を実現するために必要な政策・施策等を検討し、総合戦略に記載する。

【2. 総合戦略の施策体系】
総合戦略の施策体系は3階層（基本目標、基本的方向、施策）に構成しています

総合戦略の施策体系



施策体系の内容

苫小牧市の人口の現状と将来展望（苫小牧市人口ビジョン）を踏まえた上で、それぞれの地域の実情に応じながら、一定のまとまりの政策分野ごとに設定する戦略の基本的な目標となるもの。

国では4つの基本目標を設定している。

設定した基本目標の達成に向けて、どのような政策を推進していくかを設定する戦略の基本的な方向性となるもの。

政策分野（基本目標）ごとに、それぞれの苫小牧市の実情に応じながら計画期間（5年間：2015年～2019年）のうちに実施する具体的な施策のこと。

すべてが新規の施策である必要はなく、既存の施策でも効果の高いものであれば含めてもよい。

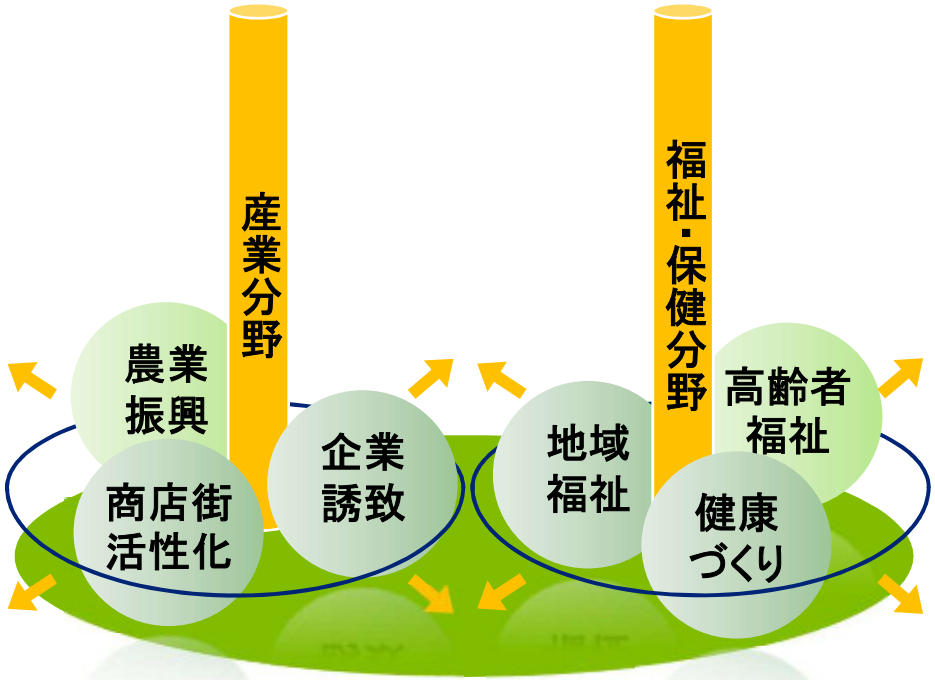
【3. 施策検討にあたっての考え方】
総合戦略では、人口問題に特化した「えこひいき型」の施策立案がより重要

「えこひいき型」の施策立案

従来の行政計画（総計等）

総花的に施策を展開

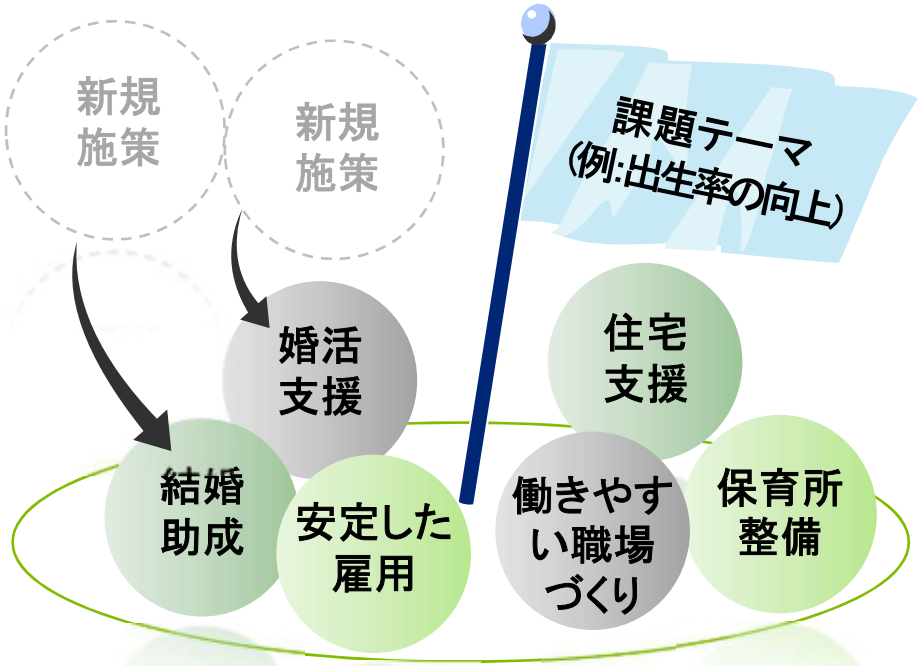
■ 所管や分野ごとに縦割りに施策立案し、総花的にまちづくり施策を展開するモデル



総合戦略での施策

課題テーマを掲げ、施策をえこひいき

■ 人口問題に係る各テーマを設定し、そのテーマに沿った重点施策を展開するモデル



【4. 施策内容のイメージと数値目標等の設定】
施策内容は一貫性を持ち、かつ効果的な数値目標等を設定する。

施策内容のイメージ

（例）《基本目標》本県への新しいひとの流れをつくる

数値目標：・県全体で、県外からの転入者数：５年間で○○人増加
・県全体で、県外への転出者数：５年間で○○人減少

（基本目標）

《基本的方向》
○　移住希望者の視点に立ち、雇用や住まい、教育等の移住の受け皿に関する総合的な環境整備を行うとともに、全国移住促進センターの活用などを通じて、移住希望者向けの情報提供に取り組む。
○　本県においては、若者の大学進学時や就職時に東京圏への転出が多数に及んでいることから、県内に所在する大学等の活性化、企業等における地方採用・就労の拡大に取り組む。

（基本的方向）

《具体的な施策と重要業績評価指標（ＫＰＩ）》
（ア）本県への移住の促進
①移住・交流の専門相談員の配置
県の移住相談センターに移住・交流に関する専門相談員を配置し、インターネット等により本県に関心を持った人に対する相談窓口を整備する。
重要業績評価指標（ＫＰＩ）：センターを通じた移住者数
○○件（５か年分の累計）
（具体的な事業）・移住・交流相談促進事業
・○○○○事業

②空き家バンク等住宅情報の提供体制整備
県内の各市町村における空き家情報を統合し、一元的に情報提供する。
重要業績評価指標（ＫＰＩ）：空き家バンクに情報提供した市町村数　○○市町村
（具体的な事業）・空き家バンク活用促進事業
・○○○○事業

（イ）企業の地方拠点強化、企業等における地方採用・就労の拡大
①サテライトオフィス、テレワーク環境の整備の推進
県内各市町村によるサテライトオフィス、テレワーク環境の整備を推進し、県の移住相談センターとも連携しながら、企業の県内拠点の強化や県内での採用拡大につなげる。
重要業績評価指標（ＫＰＩ）：県内でテレワークを導入する企業数
○○社
（具体的な事業）・テレワーク実証実験事業
・○○○○事業

（ウ）大学等の活性化
①地元大学への進学促進
県内にキャンパスを有する大学等の活性化の取組を支援し、高等教育段階における地元進学を促進する。
重要業績評価指標（ＫＰＩ）：自県大学進学者の割合　○○%
（具体的な事業）・高校と大学との交流促進事業
・○○○○事業

（具体的な施策と重要業績評価指標（ＫＰＩ））

※出所：地方版総合戦略策定の手引き

施策内容に関する数値目標等の設定

“数値目標”の設定

行政活動そのものの結果（アウトプット）ではなく、その結果として住民にもたらされた便益（アウトカム）に関する数値目標を設定します。

“重要業績評価指標（KPI）”の設定

原則として、当該施策のアウトカムに関する指標を設定するものとします。なお、アウトカムに関する指標が設定できない場合には、アウトプットに関する指標を設定することも可能です。

数値目標及びKPIの設定の考え方

アウトプット（活動指標）　→　アウトカム（成果指標）

結婚イベント開催件数　　婚姻件数

※結婚支援を基本目標とした場合

３．苫小牧市総合戦略（骨子）

①～③の課題や方向性を支える基盤として、新規に④（産業振興）を追加しました

基本的方向案の導出

前回有識者会議で説明

現状及び課題の整理	目指すべき将来の方向性（案）	基本目標（案）
① 就職時期の若年世代の転出超過が目立つ。札幌市や首都圏への転出を抑制するような雇用環境の充実が課題である。	① 市内の雇用環境を維持・向上させるとともに、市内の住みやすさを改善し、札幌市をはじめとする若年層の転出を抑制する。	1 地元企業と学生と“つながり”を強化し、地元雇用拡大を実現
② 現在の出生率を維持しても人口は減ることから、若い女性人口を増やすとともに、子育ての経済的負担軽減が課題である。	② 子育て・教育しやすい環境を整備するとともに、結婚・子育て世代（特に女性）の転入を増やし、出生率を向上させる。	2 女性が子育てしながら仕事を続けられる社会環境の整備
③ 地域コミュニティの活性化や域内交通の利便性が低いなど、生活環境の改善が課題である。	③ 生活環境を改善し、苫小牧市での暮らしのメリットをPRすることで、交流人口やUIJターンをより増加させる	3 地元魅力を強化、暮らしやすさ発信で移住を促進
新規追加 ④ これまで人口増加を維持できたのは製造業をはじめとする企業誘致の影響が大きく、今後人口減少局面をむかえる中で、更なる競争力向上が喫緊の課題である。	④ 北海道内はもとより、国際的な競争力を持つ市として、企業誘致をはじめ、民間投資を呼び込むための誘致活動を充実させる	4 産業競争力を高め、地域ブランド力を向上

基本目標を実現するための方向を地域課題・資源から導出しました

基本目標（案）、および基本的方向（案）

	基本目標（案）	地域課題（一部再掲）	地域資源	施策の基本的方向（案）
1	地元企業と学生と“つながり”を強化し、地元雇用拡大を実現	■ 就職時期の若年世代（20～29歳）の札幌市や首都圏への転出超過が目立つ ■ 高校生大学生が地元の優良企業を認知していない（66.9%が知らないと回答）	■ 日本を代表する製紙工場 ■ 製造業（自動車）をはじめ、大手企業が立地 ■ メガソーラーや植物工場など最先端の取り組み多数	1-1 市内在住若者の雇用機会の拡大 1-2 学生と地元企業との“縁づくり”促進 1-3 若者によるベンチャー起業の支援
2	女性が子育てしながら仕事を続けられる社会環境の整備	■ 約半数の人（48.6%）は、理想の子どもの数と実際の子どもの数にギャップがある ■ 希望する人数の子どもが持てない理由の上位は、「子育てや教育にお金がかかりすぎる（62.3%）」	■「職住近接」 ■ 東部地区に新興住宅地 ■ 郊外型の商業施設（イオンやGU、西松屋等）が充実 ■ 北海道で一番少ない降雪量	2-1 仕事と子育ての両立支援 2-2 出産・子育てしやすさを実感支援 2-3 苫小牧らしい教育プログラム形成支援
3	地元の魅力を強化、暮らしやすさ発信で移住を促進	■ 転入者の多くは、北海道内の周辺市町村からで、年代は20歳～39歳の世代が多い ■ 将来期待される苫小牧のイメージは「活気あるまち」（≒現在は活気がない）	■ ラムサール条約に指定の「ウトナイ湖」や活火山「樽前山」など、貴重な自然環境 ■ カヌーや乗馬、オートキャンプなどのアクティビティが充実 ■ 全国初のスポーツ都市宣言	3-1 苫小牧出身者のネットワーク化支援 3-2 交流人口・定住人口の拡大支援 3-3 “とまごころ（地元自慢の心）”の普及
4	産業競争力を高め、地域ブランド力を向上	■ 苫小牧は製造業をはじめとした産業集積地であるが、世界的な景気の影響や社会環境の変化により、常に（国際的な）地域間の競争にさらされている	■ 国際港湾苫小牧港と国際空港新千歳空港のダブルポート ■ 紙・パルプ、自動車、石油精製など様々な産業が集積 ■ 札幌まで特急で約50分	4-1 進出企業へのサポート機能の強化 4-2 多様な産業集積（高度化）の推進 4-3 地域間連携（広域観光）の促進